

くるみに対する固形肥料の肥効試験

矢木博、町田博、小林幸右衛門

本試験成績は山地に植栽したくるみの幼木の生育に対する固形肥料の肥効をみるために、昭和35年春植付の2年生苗の基肥施用で始められた継続試験の2回目調査成績である。

試験地 小県郡東部町和区 大室総合農場

試験区 3区3連制で総面51.0aである。

ブロック		無肥料区	標準施肥区	倍量施肥区	計	反当本数
I	面積	7.5a	5.0	7.5	20a	
	植付距離	4.5m × 4.5m	4.5m × 4.5m	4.5m × 4.5m		
	植付本数	27	18	27	72	36
II	面積	7.5	7.0	11.5	26a	
	植付距離	5.4 × 5.4	5.4 × 5.4	5.4 × 5.4		
	植付本数	24	24	36	84	32
III	面積	5.0	5.0	5.0	15a	
	植付距離	4.5 × 4.5	4.5 × 4.5	4.5 × 4.5		
	植付本数	18	18	18	54	36
計	面積	20a	17a	24a	61a	
	本数	69本	60本	81本	210本	34

Iブロックはラジノクローバー、オーチャードグラスの草生3年目、IIブロックはとうもろこしの間作、IIIブロックは清耕であったが雑草に被はれた。

施肥 肥料は(桑) 2号粒状固形肥料(N-10、P₂O₅-4、K₂O-2)で、何れも所定量を苗の周囲輪状に施用した。

	1本当施肥量	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	反当施肥量
無施肥区	0				0
標準施肥区	0.9Kg	9.0	3.6	1.8g	31.8 Kg
倍量施肥区	1.8Kg	18.0	7.2	3.6g	60.8 Kg

調査成績 新梢の伸長量を調べた成績は次の通りである。

区名	調査株数	一株当	一株当	新梢	指数
		新梢総伸長量cm	新梢数	一本当伸長量cm	
I ブロック					
無施肥区	15	502.2	10	51.2	100
標準施肥区	15	232.0	5	46.4	90.6
倍量施肥区	15	293.6	7	40.4	78.9
II ブロック					
無施肥区	20	322.6	9	36.4	100
標準施肥区	20	453.9	12	37.5	103.0
倍量施肥区	20	494.2	11	44.9	123.4
III ブロック					
無施肥区	10	305.9	10	32.2	100
標準施肥区	10	323.1	8	39.4	122.4
倍量施肥区	10	349.3	9	38.0	118.0
平均					
無施肥区	45	376.9	10	39.9	100
標準施肥区	45	336.3	8	41.1	103
倍量施肥区	45	379.0	9	41.1	103

初回に施肥量が多過ぎたため、施肥区殊に倍量区に植傷みが多く出たので、2年次には施肥をせず調査をせず、そのまま経過し、本年春枯死苗を植え替して、施肥料を初回の半量とした。本生育季間に生じた新梢数及びそれらの伸長量を調査した結果が前表である。表でみるように各ブロックまちまちの成績で、初回のような傾向も認められず、肥効を言う成績ではなかった。

資 料

棉の生育と収量

担当 池田佳子、倉島留次郎

農林省特産課の斡旋により、棉品種の系統維持を担当している愛知県農業試験場豊橋分場より、下記4品種の種子を得て試作した。1品種13.3m²宛に5月29日に播種した。下記成績は各品種の比較的正常に生育した5株を調査対照としたものである。

次年度には更に調査を重ねて地域適応性を判定したい。